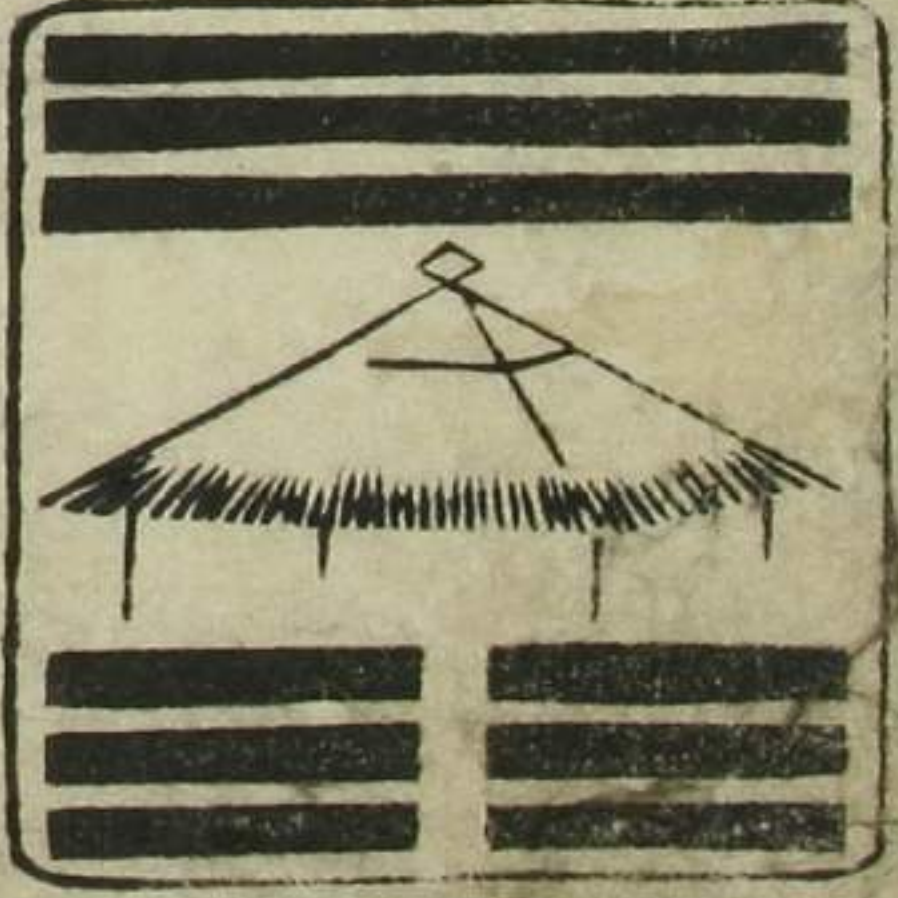


遠
2378
79

前

篇

曲亭馬琴作



歌川豊国画

六

六三之文車

六册合卷
甘泉堂梓

壹



わらわらまのり このころ ちんちんをのりしを 春の新版千年も盡ぬ合巻の作者の趣向奇相似
 例の六三の六三が文車廻る因果と引れる縁との日もぬぬの通と風の
 文料を仇るううのらう 書固に封皮ハ八重垣の内の小指と大指小如才
 毛の筆第花招くともる 穂小出。白栗が伎倆後竟小るる知まわか
 みて契入深丸硯の海小誰水さそて疑ひの解てら雪の女夫松末ハととと孝子の
 供せ。主管燭さうがよりわや 難波長者の子宝ハ玉欵あまの鶏鳴く東小名
 傾城の实情ハ晦の星月夜鎌倉官領の時小當て治る國の世話郷談小
 亦勸徴の枝とさそて實小るる花の桜木小壽たぐ序ととのふ

文政四年辛巳春正月吉日發販曲亭馬琴戲墨世言





浪人
北山嵯峨二郎

あつち菊に
こぼろさそで
秋の雲
羅文

富屋の側室玉梓

花の次
信天翁
孺子順礼六三郎



紅の箱
別長あり
富屋の
正妻
陽良





糞土勿
 賤五穀
 生自此
 珠玉勿
 貴難充
 一日餓
 澄濁ろ
 人の
 の
 の

福科屋靖兵衛

鎌倉管領の
 雑掌
 戸栗
 突平太



底よ
 世のうた
 草を
 生ふべかり
 けり
 頼齋

福科屋の
 女房阿文

戸栗が
 内

富屋
 小に
 番

わんさかめりののちり
ちり又ちりさのちり
まじりてめりて
うら山をのちりて
とて十はちりて
そのちりて
わんさかめりののちり
ちり又ちりさのちり
まじりてめりて
うら山をのちりて
とて十はちりて
そのちりて



そののちり
ちり又ちりさのちり
まじりてめりて
うら山をのちりて
とて十はちりて
そのちりて

まのちり
ちり又ちりさのちり
まじりてめりて
うら山をのちりて
とて十はちりて
そのちりて



そののちり
ちり又ちりさのちり
まじりてめりて
うら山をのちりて
とて十はちりて
そのちりて

下
の

This page contains a drawing of a person in traditional Japanese clothing, including a patterned kimono and a hakama. The person's right hand is raised, with fingers spread. The drawing is framed by a simple border.

Surrounding the drawing is handwritten text in various orientations:

- At the top left, there are several lines of vertical text, including characters like 下 (shimo) and the number 一 (one).
- To the right of the drawing, there are several vertical columns of text, some starting with 上 (ue) and 下 (shimo).
- Below the drawing, there are more vertical columns of text.
- At the bottom left of the drawing area, there is a horizontal line of text.

A small box with the character 下 (shimo) is visible at the bottom right of the drawing area.

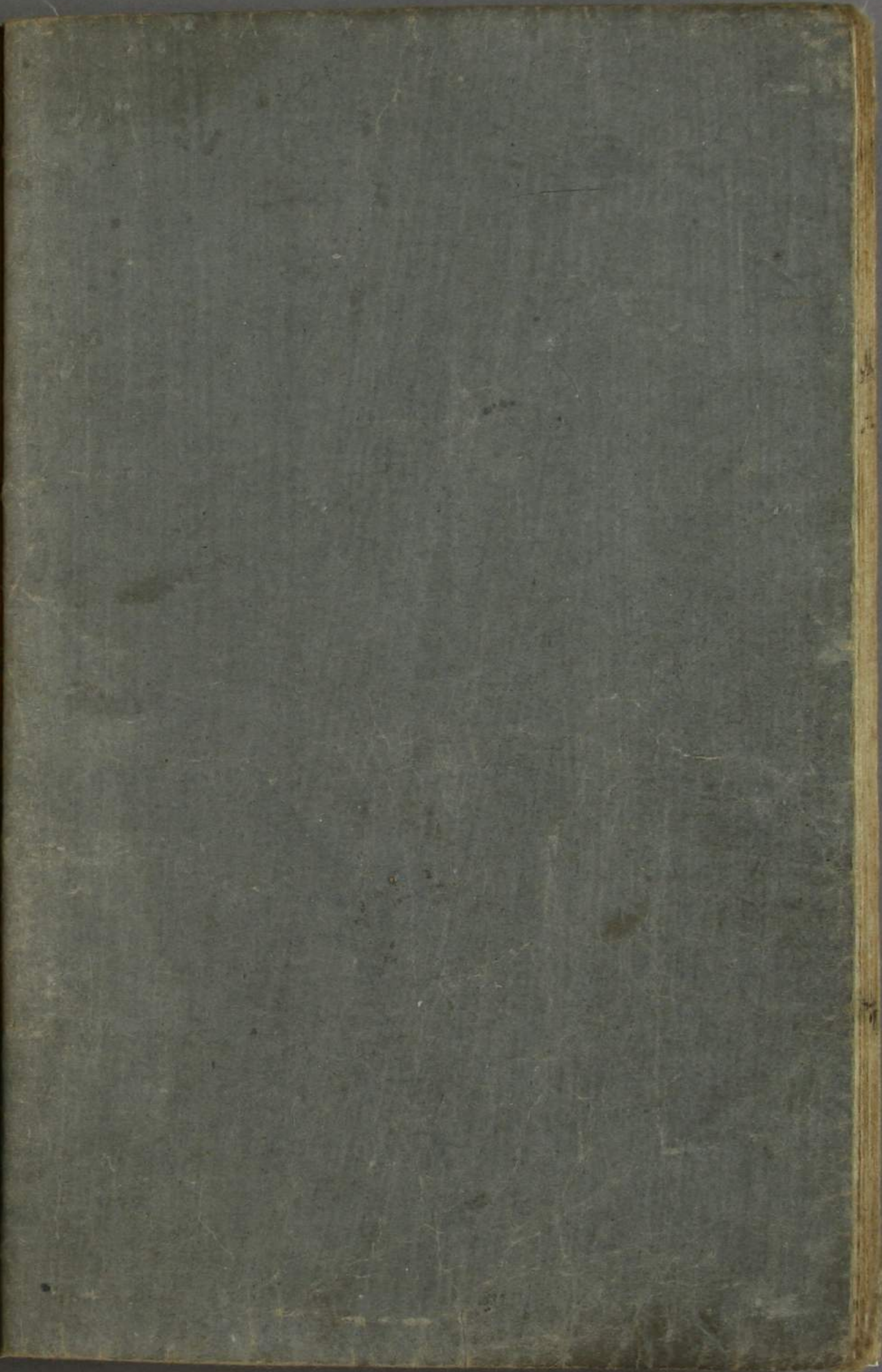
下
 A large, dark, irregular ink blot or smudge is present on the left page, partially overlapping the vertical text.

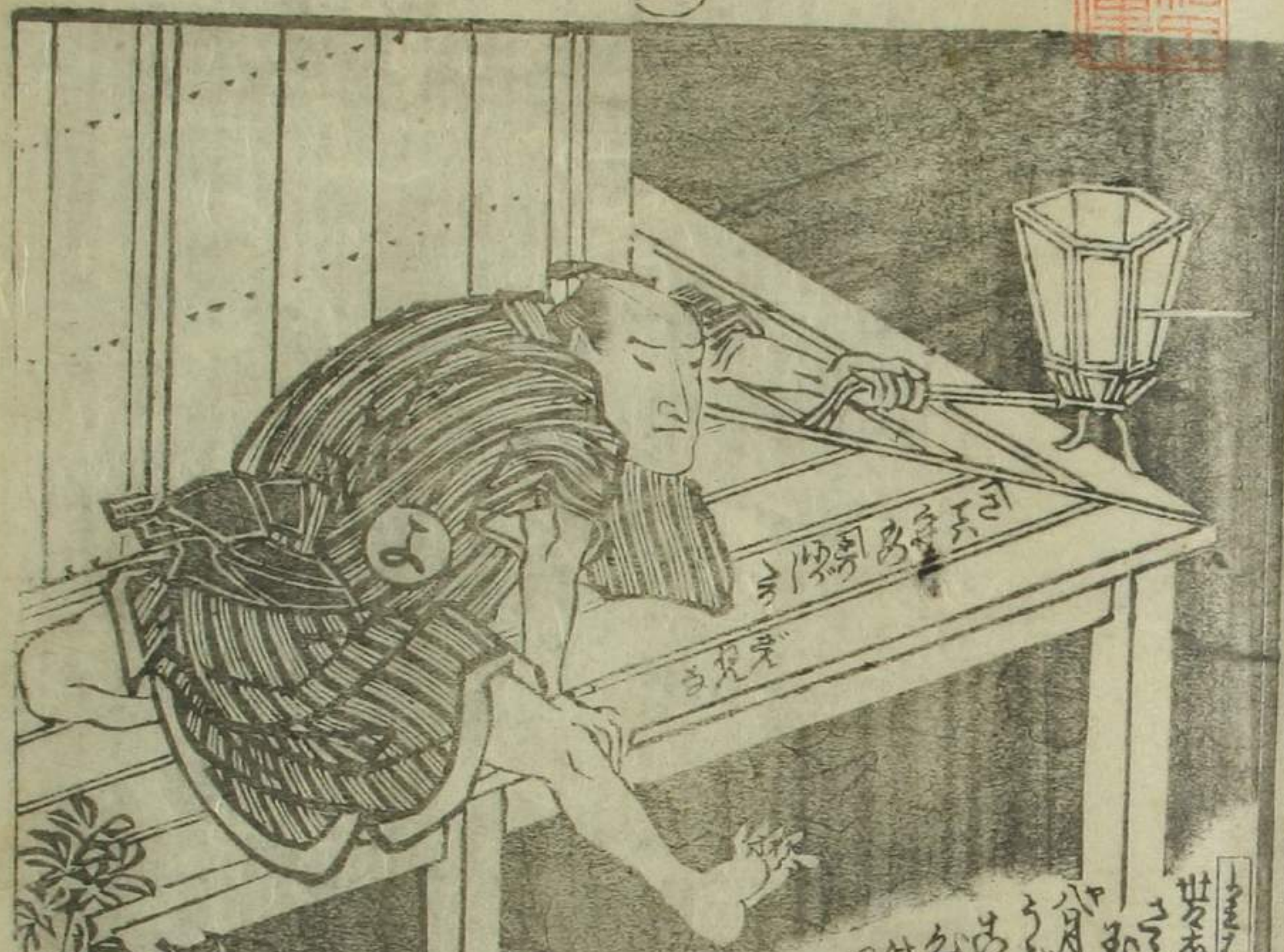


馬琴作
豊國画

162

中



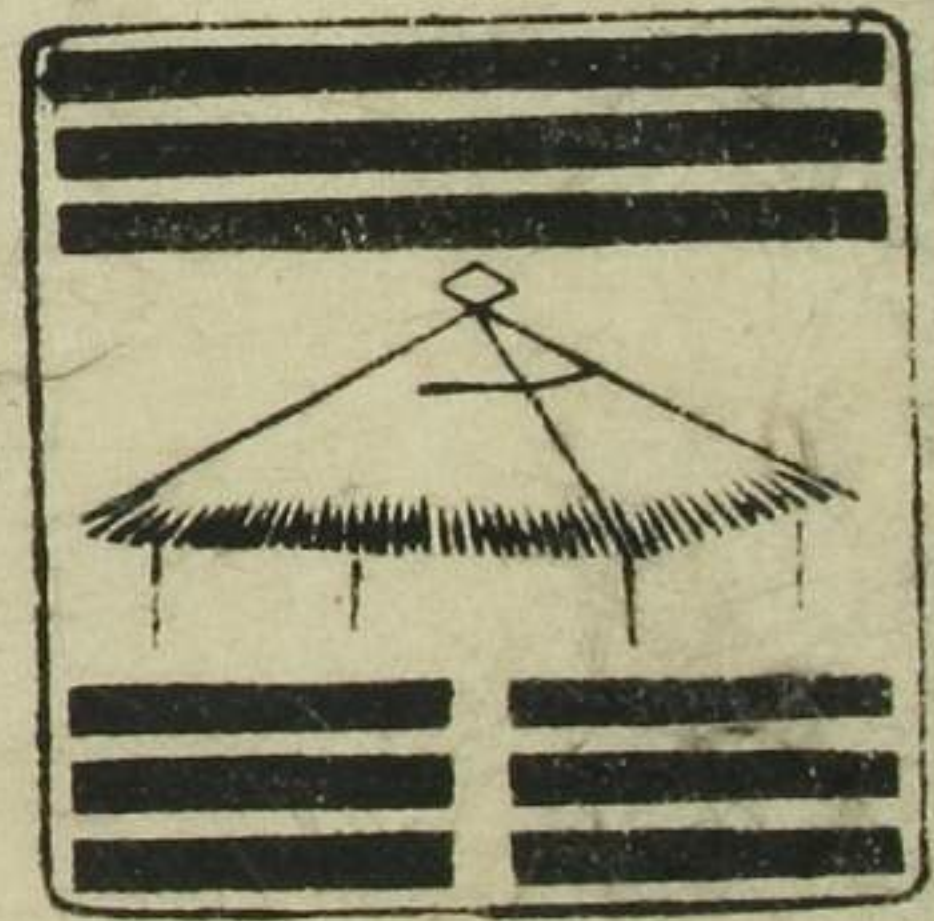


Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) located below the illustration on the left page.



中 (Naka) - A large vertical character, likely representing the middle character in the title 'Nakanishi'.

簾 (Sode) - A large vertical character, likely representing the right character in the title 'Nakanishi'.





Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy or a specific dialect. The text is arranged in several columns, some following the lines of the illustration and others in separate blocks. The characters are small and densely packed.



Handwritten text in a cursive script, similar to the text on the left page. It is arranged in several columns, some following the lines of the illustration and others in separate blocks. The characters are small and densely packed.



Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary, located above the garden scene.



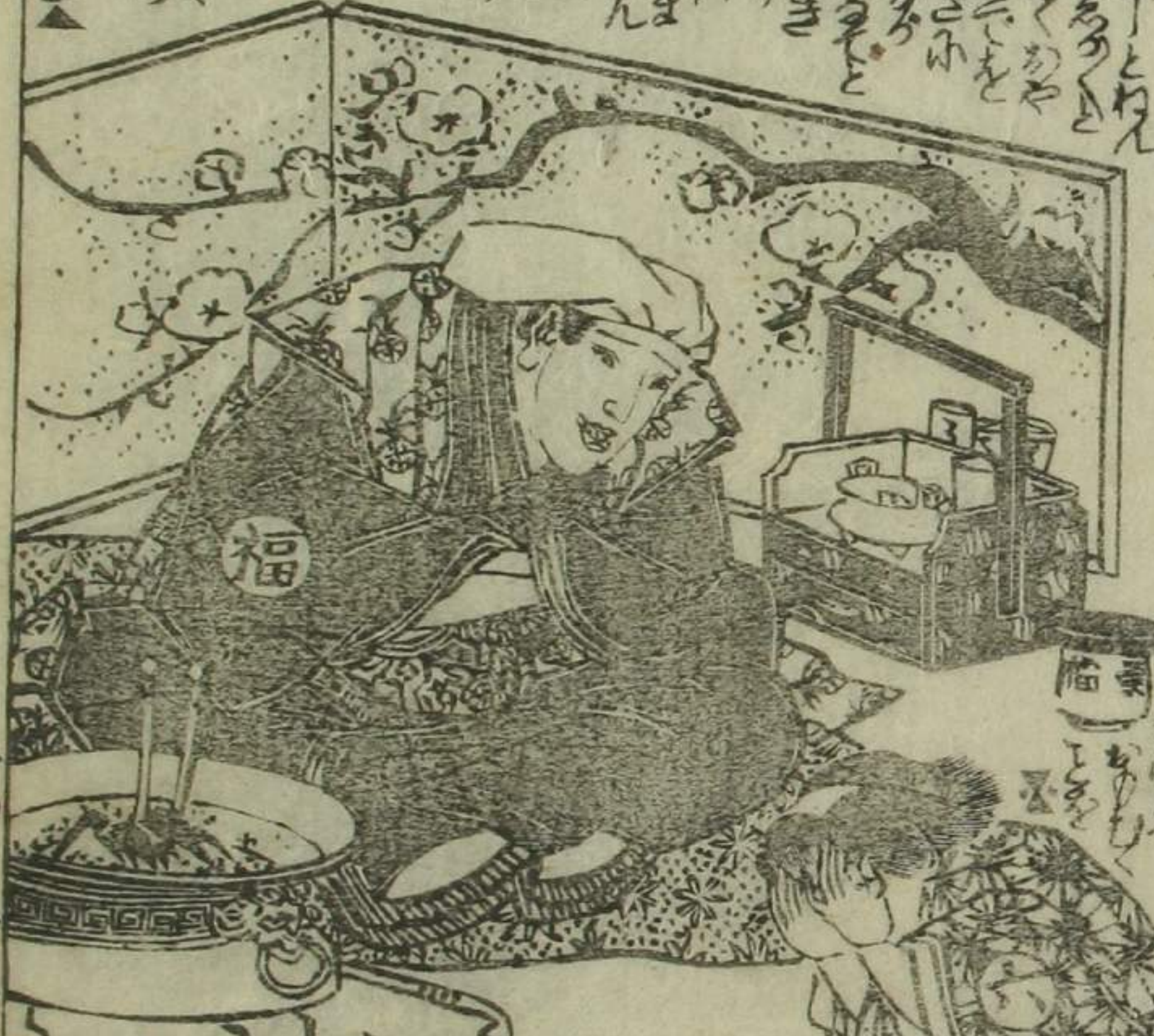
Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary, located above the woman with long hair.

Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary, located between the woman with long hair and the kneeling person.

Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary, located below the kneeling person.



Handwritten text in the top left corner of the left page, likely a preface or introductory notes.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, possibly describing the scene or providing commentary.

Handwritten text in the top right corner of the right page, continuing the narrative or providing further details.

Handwritten text in the middle right section of the right page, containing several paragraphs of text.

Handwritten text in the bottom right section of the right page, including a large vertical title and additional text.

馬狂今作





馬琴作

豐國画

大政四年癸巳正月芝甘泉堂板



海成子



平太の...

うけ... 平太...

の... 平太...



上の...

あ... 平太...

あ... 平太...

平太の... 平太...



あ... 平太...



あふ又馬場の...
 七...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...

あふ又馬場の...
 七...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...



あふ又馬場の...
 七...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...

あふ又馬場の...
 七...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...



サアとてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて
 ともあがてあつてのわいひをえんうのまじりて

そのおろか
 つるくれば
 六之巻
 二日
 可成り
 不
 平太
 三



平太のとき目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも
 くらむも目をくらむも

町人とおそろし
 さまじらうて
 けがらある

まるのきき 登土のまゝらた
 ちろ平太とておんてもくろひの
 まるさなをいれむ廿七のつらさを
 るるるるるれいこをまてつくま
 ひろをいんまてまてせら内か
 ひろとむびせらめめひのひろめ
 ひろもくせをさういつをい
 ちろちろ平太がぶんびびと
 うけとめてもむひめめめめめめ
 どの身入ひろりうけらうらあすきたん
 ちろれどもちろりいせのなるを
 うんせとてりせめめめめめめめ
 ひろひろりうけらうらあすきたん
 ちろちろ平太がぶんびびと
 うけとめてもむひめめめめめめ
 どの身入ひろりうけらうらあすきたん
 ちろれどもちろりいせのなるを
 うんせとてりせめめめめめめめ



下り 身入 小つぢのさ
 ちろちろ平太がぶんびびと
 うけとめてもむひめめめめめめ
 どの身入ひろりうけらうらあすきたん
 ちろれどもちろりいせのなるを
 うんせとてりせめめめめめめめ

つらさをいれむ廿七のつらさを
 るるるるれいこをまてつくま
 ひろをいんまてまてせら内か
 ひろとむびせらめめひのひろめ
 ひろもくせをさういつをい
 ちろちろ平太がぶんびびと
 うけとめてもむひめめめめめめ
 どの身入ひろりうけらうらあすきたん
 ちろれどもちろりいせのなるを
 うんせとてりせめめめめめめめ



下り 身入 小つぢのさ
 ちろちろ平太がぶんびびと
 うけとめてもむひめめめめめめ
 どの身入ひろりうけらうらあすきたん
 ちろれどもちろりいせのなるを
 うんせとてりせめめめめめめめ



富屋の
 女を
 見れば
 世に
 稀なる
 女あり
 けり
 富屋の
 女を
 見れば
 世に
 稀なる
 女あり
 けり
 富屋の
 女を
 見れば
 世に
 稀なる
 女あり
 けり

富屋の
 女を
 見れば
 世に
 稀なる
 女あり
 けり
 富屋の
 女を
 見れば
 世に
 稀なる
 女あり
 けり



富屋の
 女を
 見れば
 世に
 稀なる
 女あり
 けり



